

317  
131

見  
童課外讀物目錄



始





兒童課外讀物目錄

靜岡師範學校附屬小學校



3/7-13/

目次

- 一、お伽噺、物語、小説
- 二、歴史、地理
- 三、理科
- 四、學習參考書
- 五、少年少女雜誌類
- 六、課外讀物について

此の目録は主として當校にて購入したる兒童課外讀物の圖書目録である。内容解説を詳述する暇のなかつたのは遺憾である。

お伽噺。物語。小説。

書名	著者	發行所	價	内容
黄金の鳥 (1)	鈴木三重吉	春陽堂	〇、八五	『世界童話集』はお伽噺中の白鳥である著者は例の赤い鳥ではない人である『黄金鳥』以下五篇
鼠のお馬 (2)	同	同	同	『金の城』以下五篇
星の女 (3)	同	同	同	『星の女』以下五篇
青い鸚鵡 (4)	同	同	同	『青い鸚鵡』以下五篇

大正 11. 10. 14 内交



馬鹿の小猿 (10)	銀の王妃 (9)	黒い沙漠 (8)	魔好の (7)	湖水の鐘 (6)	海のお宮 (4)
同	同	同	同	同	鈴木三重吉
同	同	同	同	同	春陽堂
同	同	同	同	同	堂の八五
『馬鹿の小猿』以下五篇	『黒い牡牛』以下三篇	『輝夜姫』外二篇	『魔女の踊』以下三篇	『湖水の鐘』以下四篇	『海のお宮』以下三篇

あひるの王様 (16)	一本足の兵隊 (15)	大法螺 (14)	七面鳥の踊 (13)	黒い小鳥 (12)	慾ばり猫 (11)
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
『あひるの王様』は尋一、二位の喜ぶ材料	『一本足の兵隊』以下十篇	『大法螺』以下四篇	『七面鳥の踊』以下五篇	『マタボア』以下五篇	『ぶく／＼長々火の小僧』以下四篇







木馬の踊	怪光船	空とぶお城	ころく小桶	人魚の笛	赤い小壺
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
『木馬の踊』以下四篇	『怪光船』以下五篇	『空とぶお城』以下五篇	『ころく小桶』以下五篇	『人魚の笛』以下四篇	『赤い小壺』以下四篇

初日の出	ふき	天馬	山紅葉	かまはん坊	拳の旅行
同	同	同	馬淵冷佑同	同	同
同	同	同	同	同	寶文館同
同	同	同	同	同	同
『初夢の後』以下四篇	『ベニーの命』以下四篇	『アルフレッド大王』以下五篇	『児童の讀物』といふ叢書である、 『お伽文庫』と同様健實なもの	『つかまはん坊』以下四篇	『拳の旅行』以下四篇



梅の香	同	同	同	同	『兄の心』以下五篇 これまでが既刊、十二篇まで續刊 される
お伽夜話	岩下小葉 日本實業社	同	同	同	『少女の友』『幼年の友』等を編輯 せる岩下氏の童話集 尋四以下。
第二お伽夜話	同	同	同	同	あどけない童話、『二人の蓮子』以 下八篇を集じ、修二氏の挿繪。
ちるちる、みちる	山村暮鳥 洛陽堂	同	同	同	創作童話三十七編をあつむ、眞摯 に人生の諸問題を背景にしてある 尋五以上
不思議な旅	小林哥津子 玄文社	同	同	同	瑞典のセルマ、ラケルウ女史が同 國教育界から依頼された作つたお 伽噺の譯である、尋六以上に好適
ろしあお伽集	昇曙 大倉書店	同	同	同	世界のろしあお伽噺中最も異彩を放てる 露西亞のお伽噺中特に興味あるも の二十六種を選んである。

ろしあ傳説集	同	同	同	同	謎の國に育つた不思議を傳説集、 兒童にも面白く、同君の研究者に も便利な本である。
ろしあ童話集	同	同	同	同	三書とも内容の多い本である、子 供には文字が小さすぎる、程度は 高等科。
露西亞童話集	秋田雨雀 矢野博信	同	同	同	昇民のよりも異譯されて、一層平 易である、五年以上に適してゐる
利口な驢馬の物語	本野久子 警醒社	同	同	同	利口な驢馬の身上話で教訓を含ん だもの佛蘭西貴夫人の原著である
小學お伽選	奥野庄太郎 文華株式會社	同	同	同	成城の兒童について實驗した結果 撰擇してこの三十編を得たといふ 事だ、四年以下のよみ物。
鸚鵡と時計	西條八十 赤い鳥社	同	同	同	童話集、輕快な想像の豊かな作品 である。



ト ン ボ 眼 玉	小 供 の 國	金 の 輪	智 の 泉	ど ん た く	世界 名物 お伽 巡 禮
北原 白秋 アル ス 一、九〇	中野 靜春 東亞 堂 一、三〇	小川 未明 南北 社 一、五〇	金子 洋文 實業 社 一、三〇	竹久 夢二 同	巖谷 小波 日本 書院 一、五〇
童謡を今日に到らしめるために第一に力あつた人は著者である。これはその人の尊い童謡集である。	著者は北國に於けるお伽界の重鎮である。實際の経験ある、人の作とたしかにしてうなづかれる。	小説家として名ある氏が作られた童謡である。巻頭に「童謡の詩的價値」の論文がのつてゐる。	「親と子の汲みがはした」と冠してある。父と子、叔父と甥、教師と生徒等の對話をかりて子供に靈智を授けようと試みたものである。	例のローマンチックな繪と歌とでみたされて居る。	各國の代表のお伽噺が簡潔に書かれてゐる。

白鳩 趣味 讀本	滑稽 童話 集	悲 し き 微 笑	趣味の 實のある 話	おとぎ ばなし お八つ 代り	花 物 語 一、二 集
桂田 金造 文教書 院 一、三〇	藤澤 衛 六國民 書院 一、三〇	白石 實三 研究社 〇、七〇	横尾 誠治 敬文館 一、〇〇	八波 其月 同	吉屋 信子 各 洛陽堂 一、五〇
第一篇には「智恵くらべ」以下五つ載せてある。余程の力作である。	日本童話集第一篇である。	高等科兒童にはよからう。	古今東西の逸話物語、五六年以上の讀物である。	八波氏が子供の氣分に浸つて書いた本、敢て推奨する。	花を中心としての美しい少女向きの物語である。やゝ地方の兒童には構想も繊細すぎる心地がする。



迷ひ子のあひる	鈴木善太郎文泉社二、九〇	『迷も子の家鴨』以下十四篇稍々大人の藝術すぎる。
模範お伽集	岩田九郎大日本圖書株式會社一、八〇	お伽講演の方法及實際資料である寧ろ教訓の参考とする方が多い。
アラビヤンナイト 卷上	杉谷代水富山房三、八〇	上下兩卷とも十四五篇の勝れたお伽をえらんでのせてある。教訓的なもの、純お伽的のものをよりなつてゐるがどれも兒童生活に興深いものばかりと考へる。
アラビヤンナイト 卷下	同	アラビヤンナイトに比べるとどれも文が短い、程度も低く出來てゐる。又興味深いものである。
グリムお伽噺	中島孤島同	グリムお伽噺と同じ体裁ではあるが教訓的分子が餘程濃厚である。
イソップ物語	楠山正雄同	同

アンデルセンお伽噺	長田幹彦同	三、八〇	他に比べて餘程意味の深い奥ゆかしい作品ばかりである『人魚』『マツ賣の娘』など等によい。
ロビンソン漂流記	平田禿木同	同	世に出たロビンソン漂流記中最も完全なものと思ふ。
カリバー旅行記	同	同	小人國、大人國、飛鳥馬之國旅行記より成るロビンソン漂流記と相似てゐる。
世界童話寶玉集	楠山正雄同	八三	當校に於いて最も多く讀まれた本の一つである世界各国の文豪名作をあつめてゐる。
類白の歌	沖野岩三郎日評論社二、七〇	同	著者は新宮の牧師實際に教會で子供に話されたものをあつめたもの特長ある著である。
熊野詣り	沖野岩三郎警醒社二、〇〇	同	類白の歌と同じ類のもので純日本的な題材によつてゐる。



金の鈴	野邊地天馬社 丁未出版 一、五〇	金の鈴の様な優しい響きと與へるもの、著者もいつてゐる、無邪氣め童話集字も大きくてよみよい手ごろの本。
鵜取兵衛	高野辰之春陽堂 、六〇	鼠の浄土と共に鈴木三重吉氏の世界童話集
鼠の浄土	高野辰之春陽堂同	前と同一種類のものである。
讚美歌お伽噺	藤川淡水警醒社 、四〇	讚美歌集から二十番だけの讚美歌をえらみそれを二十篇のお伽噺に仕組んだもの。
友情	賀川豊彦同 、六〇	友情の厚きダビテとヨナンの物語をかいたもの。
東の子供へ	秋田雨雀社 日本評論 三、〇〇	いゝ作である、五六年以上のよみ物

心のふる郷	岩下小葉 實業社 一、五〇	『みなし兒』以下八篇、女子の上級生に適する。
ピク子ヨ	西村アヤ キンノツ社 同	十二歳の少女の作られた童話である、伊太利の童話の記憶をかいたのである。
砲島	葛原幽博文館 〇、九〇	『砲臺島』以下十八篇の少年小説集
改訂袖珍世界お伽噺	巖谷小波 同	第一集より六集まで。
日本お伽噺	同	
世界お伽噺	同	全部百冊十冊の合本である。



家庭 お伽斬	古事記物語(上)	古事記物語(下)	三人兄弟	日本童話(上)	日本傳説(上)
吉岡向陽 高野斑山	鈴木三重 吉赤い	同	菊地寛	森太郎 外四名	同
春陽堂 各一〇	〇、九六	同	一、〇〇	各冊 一、八〇	一、八〇
五十冊完結、	『女神の死』外九篇ある、	『白い鳥』以下八篇。	『不思議な話』以下七篇、いゝ本だ。	文章も子供らしい、挿繪も凝つてある。	日本の傳説お伽斬としてはたしかにこの右に出づるものはあるまい

日本神話(上)	魔法比べ	新約物語	舊約物語	ふるさと
同	井上芳子同	野邊地天馬 版丁未社出	同	鳥崎藤村 日實業社之
一、八〇	同	一、〇〇	同	一、〇〇
母と子文庫の第一篇である。	ロシアの國民の間に傳へられた所謂國民お伽斬である。	新約聖書を物語風としたもの。	舊約聖書を子供によませる風に書きなほしたもの。	『幼きものに』の姉妹篇文章流麗。



幼きものに 同 〇、八〇	著者のフランス土産の話である。
童話蓄蔵の踊子 徳永壽美子 アルス 一、八五	十九篇の物語がある、尋三以上の 女児による。
驢馬の皮 楠山正雄 家庭讀物 刊行會 一、三〇	九つの話がりつてゐる、王子王女 の美しい物語である。
久留島お伽講壇 久留島武彦 富山房 一、〇〇	お伽講演をきいてゐる様に書いて ある。
子供の對話 小柴博 勢能哲 中西屋 〇、五五	古いけれどもよい作である。
食卓談話 學校家庭 高野松次郎 寶文館 一、五〇	自然人事等一般より材料を集めて ある、父母教師のよみきかすべき もの。

ワシントン物語 野邊地天馬 丁未社 出三、〇三	高等科男子の讀物として適當であ る。
小年探偵ヂツクの奮闘 小田律玄 文社 一、四〇	ヂツクの小探偵を中心とした活動 にでもありさうな作である。
幼児に聞かせるお話 日本幼稚園協 會 鶴田圃 三、八〇	東京女子高師附屬幼稚園で實際子 供に話したものを集めたもの。
天國の方へ 蘆谷蘆村 警醒社 一、〇〇	宗教的なお伽噺である。
ピツクリ亟 松山思水 實業之 日本社 〇、九〇	滑稽な短篇小説集である、讀んで 大笑ひすべきもの。
少女對話集 江口千代竹 内書店 一、六〇	童話劇等に適當なものをあつめて ある。



森のしづく	新島善直 警醒社	一、三〇	自然を愛する事を知らしめて宗教心の芽生を培ふことが出来るであらう。
少女べるの音 対話集	澁澤青花 實業之日本社	〇、八〇	少女の余興等を行ふに適當なものよんでも中々おもしろい。
あべこべ物語	佐々木邦譯 家庭讀物 刊行會	三、五〇	諧謔な小説である、稍高級である
入形つかひ	茅野蕭々譯 同	同	著者は獨逸人である、入形つかひ白馬の騎手外二篇がある。
雪中の三箇月 フエネロン物語	秋田雨雀譯 同	同	前者は高山にて雪中三ヶ月を祖父と奮闘する少年の日記後者は真理と教訓の童話。
ハ、イ、ヂ	野上彌生子譯 同	二、五〇	アルプス山の子供の生活を書いた清新な美しい物語。

快男兒タルラン アン・デイン	藤澤古雪譯 同	二、五〇	前者は「英雄的の笑劇」といはれ後者は美しい少女の物語。
トムソーヤー物語	佐々木邦同 同	三、五〇	
トルストイ物語	昇曙 夢同	二、五〇	トルストイの作中の物語丈を集めしもの。
黒馬物語 フラレダースの犬	加藤朝鳥同 同	二、五〇	
不思議の馬	楠山正雄譯 同	二、五〇	

歴史地理



傳面白く神代のお話	中村徳五郎松雲堂〇、八五	古事記や日本書記に現はれてゐる神代の傳説を面白くわかりやすく書いたもので平淡な挿書と相俟つて児童の好奇心をそそるであらう
傳面白く日本歴史のお話同	同	各上古より現代に至るまでの史實を十冊に分けて各時代の趣味ある史談を聯絡を保つて叙述したるもの國史の趣味を養ふのは適當な書物である
日本歴史畫譚	上田万年解説誠文堂一、二〇	繪畫を主とし文字を副とした少年用の日本歴史多年少年物に關係した木村小舟氏が編じたものを上田博士が訂正したもので安心して子供に提供することが出来る。
奈翁と其元帥	千頭清臣博文館一、五〇	前編には奈翁の後半生を叙し後編にはその元帥の列傳である高學年の生徒には讀ませたい偉人傳である。
國史美談	北垣恭次郎實業之日社一、二〇	日本人氣質の高潮した美談に特に力を注いだ國史で教師も児童も共に參考となる書物である歴史の自學でもさせ様と思ふには最良の資料である
日本歴史讀本	萩野由之博文館〇、四〇	各時代の主要事實に題名を求めて分冊し主尾一貫した少年歴史讀本で平易な筆致でしかも健實に具體的に書いてある。

全十八冊

童話の美しい國	吉田 助治文陽堂一、〇〇	神代より日本武尊までの美しい傳説を童話として趣味深く書いたもの、中學年の生徒にはよい本である。
肉 彈	櫻井 忠温丁未出版社一、三〇	本書の價値は今更贅説するまでもないものである。
歴史鐵血物語	川島 暖一郎大日本雄辯會三、三〇	金甌無缺の國体武士道の精華を示さるの意氣をもつて國史上の美談を書かれた書文も流麗である、高學年の児童にはよいであらう、
偉人の幼年時代	渡邊 霞亭大鏡閣一、〇〇	大楠公、秀吉、大石良雄、木村長門守、光明皇后の幼年時代の逸事を書いたもので教訓的でしかも平易である。
少年日本忠孝畫譚	木村 小舟誠文堂一、二〇	各書入の日本歴史である、五六年生などはさぞ喜ぶだらう。
少女な、姫	河井 醉茗同文館〇、六〇	高等科女兒等によませたき少女の昔語がある。



内外歴史講壇 <sup>上下</sup>	玉井幸助 目黒書店 各五	高等科男兒によませる東西洋の重 な歴史談である。
趣味の地理 全三冊	白井規一 鳥田牛稚 博文館 各四	地理の参考書として尋五以上に提 供するものもよからう。
理科		
子供の聞きたがる話 天文地文の巻	厚田三夫 誠文堂 二五	天文地文について子供の聞たがる 事項を説明してある。
子供の聞きたがる話 電氣磁氣の巻	同 誠文堂 同	電氣磁氣について發明發見史的の ころや最新の學說や現象や機械の 説明がしてある。
理科珍談	岡本瓊二 敬文館 一〇	理科全般に渡つて子供が不思議な 様な事柄を色々形をかへて面白く 説明してある。

なぜですか	小林巴都子 敬文館 二〇〇	理科について子供の起す疑問を對 話的に頗る平易に説明してある。
私は水の一しづく	小林巴都子 敬文館 同	水の成分や性質や用途等を擬人体 で水が自分の身の上話をするやう に面白く書いてある。
蜂の王國	兒童讀物會 大鏡閣 〇、五〇	一少年の夢の内に蜜蜂の生活を擬 人的に記したものの。
植物の不思議	同 大鏡閣 同	植物に對する兒童の不思議さうに 思ふことを二人の兄弟と農學士で ある父との問答として説いてある
理科物語	堀七藏 敬文館 二〇〇	理科の疑問や一寸した面白い實驗 などを面白く説いてある。
日常科學	同 同文館 一、四〇	兒童の化學に關する疑問を平易に 説明してある。



兒童疑問 理科智囊	少年工藝文庫	課外理科叢話	理科歸省錄	暴風雨	花の錦
同	石井民司博文館	堀七藏敬文館	石井民治博文館	同	同
同	各一五	〇、六五	〇、三	同	同
天文氣象・迷信、力、熱、音、光 についての兒童の疑問を平易に説 いてある。	丁度銅山や、石油會社や造酒所な どを實地に行つて説明を聞いてあ るやうに書いてある。	お伽噺のうちに科學的研究心を養 成しやうとするのである。	冬季休暇に歸省した人の物語とし て冬起る自然現象を主として記し たもの。	九月起る暴風雨に關係して居る自 然現象を物語として面白く記した もの。	春の自然現象と面白く物語として 記したもの。

學習參考書

富士詣	遊泳臺	幻燈會	辭林	正大學生自習辭典
同	同	同	金澤庄三郎三省堂	小野康治書
同	同	同	三省堂	駁々堂
同	同	同	ニセ	一〇〇
富士登山を主として之に夏の自然 現象を重に記したもの。	海水浴を中心として之に水に關係 あるものを記し次に夏に關係ある 現象を記す。	幻燈を中心として光音磁器等の物 理現象を主に面白く説明す。	解釋文字を知りたいときに便利で あるが兒童には使用が困難で程度 も高い。	親切丁寧に示してあるけれども解 釋の當を失つて居るものがある様 である。



新譯漢和大辭典	濱野知三郎六合館三、五〇	兒童にとつては程度が高く使用することが困難である。
課外少年百科全書	加藤美侖誠文堂三、〇〇	内容の豊富なことは便利であるが徹底して居ない教師がへいて居るなら面白く使へやう。
小漢和自習辭典	保科孝一鐘美堂〇、六五	索出が容易で解釋も兒童本位であるところが本書の特色である。
自漢和新辭典	後藤朝太郎東雲堂〇、六〇	兒童用として適當なものである索引の容易なのは本書の特色である
讀方豫習書	肥後盛熊目黒書店〇、四五	解釋の面白くないのがある摸擬試験問題だけは自修するのに便利である。
歴史豫習書	肥後盛熊目黒書店〇、四八	各區分のはしめに問のみ掲げてあるのは自修するに便利である。

算術準備書	東京教育會東雲堂〇、六	教科書を連絡して居るところが本書の特色である雑問の少ないのは本書の欠陥である。
逸話讀本	藤川義雄敬文館〇、七〇	修身書の各課毎に逸話を當てて兒童本位にしてあるものである。
評釋附鑑賞文集第二輯	藤坂國芳集成社〇、六〇	一流の大家の文學的作品を集めて之に評釋を附したもので高等科程度と思ふ。
帝少年讀本	久留島武彦教育研究各會〇、三五	國語讀本に連絡を有して居る、課外讀本中最も佳とみむ。
興課外讀本	興國教育明治出版〇、五〇	國家的色彩を濃くもつて居る本で堅實に出来て居る。
兒童讀本	佐藤武南北社二、二〇	兒童中心主義に立つて文學的材料を中心とし童謡詩歌の多いのが特色である。



綴方十二ヶ月 十二冊	話方十二ヶ月 十二冊	尋常小學 自習讀本 六年の巻	小學課外讀本	小學課外の讀物	國語綴方辭典
芦田惠之助同	玉井幸助 目黒書店	玉井幸助 實業之日 本社	同	友納友次郎 稻垣國三郎	佐々政一 芦田惠之助 目黒書店
同	各 三五〇	一、三〇	各 〇、三〇	各 一、三五	二、二〇
綴方に關する兒童の最もよき讀物である。	各兒童の話方研究資料である。	二十五の話が採録してある何れも讀本中の材料に匹敵すべき好い箇の資料である。	面白い内外の美しい昔話や教訓談である。	尋三以上高二まで各上下ある。	讀方綴方自修用として最も當を得て居る。

理科豫習書	地理豫習書	小學讀本模範自習書	小學綴方模範自習書 自習書	月刊課外讀本 全四十八冊	兒童讀本 各學年三冊
同	肥後盛熊 目黒書店	同	飯田恒作 成象堂	葛原幽博 博文館	佐藤武華 大日本株式會社
同	〇、四五	〇、四〇	〇、三五	各 〇、三五	各 〇、五〇
同	受験用である。	語釋通釋とも他にくらべてたしかである。	尋五、六年用である。	三年以上六年までである今は賣り切れて端本が多い。	成城小學校に於ての經驗に基いて出來た讀物現在尋一だけ。



児童文集	岸田牧童同文館	各三〇	尋一より高二まである。
児童文學	馬淵冷佑 東京各 出版社	三〇	尋二より尋六まである。

少年少女雜誌類

(尋一程度)

○印は適當と認むるもの。  
△印は不可と認むるもの。

雜誌名	發行所	價	内容
幼年畫報	博文館	〇、二五	

○子供の友	婦人の友社	〇、二五	材料も他に比して清新のおもひきがある。
幼女號	榮光社	〇、二五	
○ナカヨシ	キンノツノ社	〇、二五	
○日本の子供	同	〇、二五	稍長き物語などありて稍々教育的である。
日本幼年	東京社	〇、二五	以下殆んど大同小異である。
チルドレン	チルドレン社	〇、二五	



教育畫本	エウネン	ヂヤウチヤン	ボツチヤン	愛の友	幼女畫報
法令館	ヨウネン社	同	文光堂	文教社	二葉社
〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五
	繪畫は頗る闡明である。				

子供の世界	日の丸	幼女の花	幼女エバナシ	幼女の友	オトギ
歌舞社	文教社	チルドレン社	文武堂	幼女の友社	同
〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五	〇、三五



コドモエホン	同	〇、三五	
ニコく／＼コドモ	同	〇、三五	以上三種とも大同小異である。
フレンド	文華堂	〇、三五	
幼女の園	マウネン社	〇、三五	
コドモ	コドモ社	〇、三五	
幼女クラブ	文教社	同	

(尋二二三四程度)			
コドモポンチ	ヨウネン社	〇、一五	
ヨキ子供	ヨキ子供社	同	
小學少年	研究社	〇、三五	
小學少女	同	同	
幼年男子の友	學習社	同	むしろ二年程度であらう。



○まなびの友	婦人の友社	同	三四年に適當である。
幼年世界	博文館	同	
○小學女生	實業之日本社	同	三四年によいと思ふ。
○小學男生	同	同	
○良友	コドモ社	同	材料がかなり選精されてある、尋二位によからう。

(尋五六程度以上)

○赤い鳥	赤い鳥社	○五	評判のよい雑誌である、稍作家達に引きづられすぎはしまいか。
○櫻の小實	研秀社	同	四月から創刊號を出した、餘程堅實らしい。
童話	コドモ社	同	作家の創作が多い、おなじお伽噺でも稍々高級に屬する。
白鳩	文教書院	同	兒童の創作、童謡、自由詩が溢れるほどある。子供の獨創力を伸ばすやうに苦心してある。
○伸びて行く	目黒書店	同	奈良高師附屬の同人の編輯するところの學習指導について中々到れりつくせりである。
おとぎの世界	文光堂	同	現代作家の童謡が殆んど充實してゐる、稍高尚である。作家の人生觀が閃めきすぎて。



海國少年	飛行少年	少年世界	復習と受験	○五六年の小學生	日本少年
海國少年社	日本飛行研究會	博文館	南光社		實業之日本社
同	同	同	同	同	同
海軍思想を高調してゐる、樺島氏のペン書き素的だ編輯主任は静岡の人で海野厚二氏である。	探偵談、冒險談が多い子供がいかにもよろこびそうな雑誌である。	相かよらず小波氏が書いて居るこのごろ盛價を落したの感がある。	入學試験準備用雑誌である、稍かたすぎる感がある。	前者よりよほど生氣が溢れてゐる、然し受験用にとらはれすぎてゐる。	商賣風に書かれた雑誌で深味がない

少女の友	金の船	少年	少女	少年俱樂部	少女畫報
同	キンノツノ社	時事新報社	同	大日本雄辯會	東京社
〇、三〇	同	同	同	同	同
女兒のよみ物としては穩健である。	『赤い鳥』の模倣のやうな心持がするこのごろ材料が大分よくなつた。	花やかな書き振りである、綴り方には改造を要するところが多い。	前と同じ	高等科の男兒には喜ばれやう。	感傷的で不適當な讀物の様に思ふ編輯に力のある人がないためであらう



少女世界	博文館	同	高等科の女兒あたりにはよからう。
兒童の綴・方	二松堂書店	〇、三〇	四年以上の綴方指導には至極適當である。
岳陽文壇	岳陽文壇社	〇、〇五	大宮町で佐野、池谷兩氏の編輯する綴方の雑誌である。
譚海	博文館	〇、三〇	歴史物語が多い。

兒童課外讀物について

一、児童の課外讀物に關する調査  
 二、児童の課外讀物に關する調査  
 三、児童の課外讀物に關する調査  
 四、児童の課外讀物に關する調査  
 五、児童の課外讀物に關する調査  
 六、児童の課外讀物に關する調査  
 七、児童の課外讀物に關する調査  
 八、児童の課外讀物に關する調査  
 九、児童の課外讀物に關する調査  
 十、児童の課外讀物に關する調査  
 十一、児童の課外讀物に關する調査  
 十二、児童の課外讀物に關する調査  
 十三、児童の課外讀物に關する調査  
 十四、児童の課外讀物に關する調査  
 十五、児童の課外讀物に關する調査  
 十六、児童の課外讀物に關する調査  
 十七、児童の課外讀物に關する調査  
 十八、児童の課外讀物に關する調査  
 十九、児童の課外讀物に關する調査  
 二十、児童の課外讀物に關する調査  
 二十一、児童の課外讀物に關する調査  
 二十二、児童の課外讀物に關する調査  
 二十三、児童の課外讀物に關する調査  
 二十四、児童の課外讀物に關する調査  
 二十五、児童の課外讀物に關する調査  
 二十六、児童の課外讀物に關する調査  
 二十七、児童の課外讀物に關する調査  
 二十八、児童の課外讀物に關する調査  
 二十九、児童の課外讀物に關する調査  
 三十、児童の課外讀物に關する調査  
 三十一、児童の課外讀物に關する調査  
 三十二、児童の課外讀物に關する調査  
 三十三、児童の課外讀物に關する調査  
 三十四、児童の課外讀物に關する調査  
 三十五、児童の課外讀物に關する調査  
 三十六、児童の課外讀物に關する調査  
 三十七、児童の課外讀物に關する調査  
 三十八、児童の課外讀物に關する調査  
 三十九、児童の課外讀物に關する調査  
 四十、児童の課外讀物に關する調査  
 四十一、児童の課外讀物に關する調査  
 四十二、児童の課外讀物に關する調査  
 四十三、児童の課外讀物に關する調査  
 四十四、児童の課外讀物に關する調査  
 四十五、児童の課外讀物に關する調査  
 四十六、児童の課外讀物に關する調査  
 四十七、児童の課外讀物に關する調査  
 四十八、児童の課外讀物に關する調査  
 四十九、児童の課外讀物に關する調査  
 五十、児童の課外讀物に關する調査  
 五十一、児童の課外讀物に關する調査  
 五十二、児童の課外讀物に關する調査  
 五十三、児童の課外讀物に關する調査  
 五十四、児童の課外讀物に關する調査  
 五十五、児童の課外讀物に關する調査  
 五十六、児童の課外讀物に關する調査  
 五十七、児童の課外讀物に關する調査  
 五十八、児童の課外讀物に關する調査  
 五十九、児童の課外讀物に關する調査  
 六十、児童の課外讀物に關する調査  
 六十一、児童の課外讀物に關する調査  
 六十二、児童の課外讀物に關する調査  
 六十三、児童の課外讀物に關する調査  
 六十四、児童の課外讀物に關する調査  
 六十五、児童の課外讀物に關する調査  
 六十六、児童の課外讀物に關する調査  
 六十七、児童の課外讀物に關する調査  
 六十八、児童の課外讀物に關する調査  
 六十九、児童の課外讀物に關する調査  
 七十、児童の課外讀物に關する調査  
 七十一、児童の課外讀物に關する調査  
 七十二、児童の課外讀物に關する調査  
 七十三、児童の課外讀物に關する調査  
 七十四、児童の課外讀物に關する調査  
 七十五、児童の課外讀物に關する調査  
 七十六、児童の課外讀物に關する調査  
 七十七、児童の課外讀物に關する調査  
 七十八、児童の課外讀物に關する調査  
 七十九、児童の課外讀物に關する調査  
 八十、児童の課外讀物に關する調査  
 八十一、児童の課外讀物に關する調査  
 八十二、児童の課外讀物に關する調査  
 八十三、児童の課外讀物に關する調査  
 八十四、児童の課外讀物に關する調査  
 八十五、児童の課外讀物に關する調査  
 八十六、児童の課外讀物に關する調査  
 八十七、児童の課外讀物に關する調査  
 八十八、児童の課外讀物に關する調査  
 八十九、児童の課外讀物に關する調査  
 九十、児童の課外讀物に關する調査  
 九十一、児童の課外讀物に關する調査  
 九十二、児童の課外讀物に關する調査  
 九十三、児童の課外讀物に關する調査  
 九十四、児童の課外讀物に關する調査  
 九十五、児童の課外讀物に關する調査  
 九十六、児童の課外讀物に關する調査  
 九十七、児童の課外讀物に關する調査  
 九十八、児童の課外讀物に關する調査  
 九十九、児童の課外讀物に關する調査  
 一百、児童の課外讀物に關する調査



課外讀物とは、すべて教科書以外に於て兒童の讀むべき讀物の總稱である。

イ、繪草紙

ロ、單行本

ハ、少年少女雜誌

ニ、新聞等

二、目的

ナ、讀書力の増進と讀書趣味の養成

ロ、國語力の應用

ハ、自學自習の精神喚起

要するに兒童の生活經驗を豊醇ならしむるにある。

三、選擇上の標準

ナ、兒童生活に密接の關係あるもの。

ロ、社會の活事實を理解せしむるもの。

ハ、高尚なる趣味を養ひ讀書力を養成すべきもの。

ニ、各教科に關係せるものにてなるべく趣味あるもの。

四、施設

イ、談話會

ロ、朗讀會

ハ、巡回文庫

ニ、綴方の研究資料等

五、當校の實際

1 閱讀の學年

全校兒童

2 閱讀時間及管理



- イ、圖書の購入、貸借、管理等は主として校友会幹事中の圖書係が之に任ずる。
- ロ、閲讀及び整理に關しては、高三男及び高二女學級より隔日に當番二名宛を出し、閲覽者に便宜をあたへ且つ圖書の整理にあたる。
- ハ、訓導中手あきの者は兒童圖書室にて兒童の質疑に應ずる。
- ニ、閲覽時間は放課後より凡そ午後五時まで。
- ホ、一週間中、月、水、金 男兒
- 火、木、土、女兒 閲讀する(但日曜日は開かない)

3 雜件

- 2 休暇中の貸出は各級の主任訓導より兒童に貸與する。
- 2 當校兒童圖書に關する支出は校友会の會計より之を仰ぐのである。

大正十年五月

大正十年五月九日印刷

大正十年五月十三日發行

非賣品

静岡市東鷹匠町一〇三

編輯兼 竹澤義夫

發行人 静岡市江川町一番地

印刷者 日比野仁作

静岡市鷹匠町一丁目三十七番地

印刷所 日比野印刷所

發行所 静岡師範學校附屬小學校



317  
131



終